

報告者名・所属

長光太志 佛教大学総合研究所 研究員・佛教大学社会学部

概要
(会名、開催地または開催形態、開催日、主催者等)

佛教大学総合研究所共同研究 常設研究「南丹市の地域社会と佛教大学の地域連携活動に関する研究」第1回Zoom報告会
Zoom開催
2021年2月10日

URL

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/labo/activity/project/kondo.html>

佛教大学における 初級地域公共政策士プログラムの紹介 —南丹市美山町でのPBL型地域インターンシップ—



By 佛教大学：長光太志

① 初級地域公共政策士「地域振興能力養プログラム」の経緯

- ☑ 評価されたポイント
- ・大学間連携であること
 - ・地域、企業との協働があること
 - ・補助金が終了しても継続する仕組み作りをしている事

年次	年度	事業名	龍谷大学幹事校プロジェクト / 地域連携		京都産業大学幹事校プロジェクト / 企業連携	
			学部資格 / 初級地域公共政策士	大学院 / 地域公共政策士	学部資格 / グローカルプロジェクトマネージャー(GPM) (+初級地域公共政策士)	
		文部科学省：平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」				
2012	平成24年度	補助金開始 / 5年間	佛大の学部資格開始 地域公共政策士 基礎力養成プログラム			
2013	平成25年度					
2014	平成26年度		佛大の学部資格開始 地域振興能力養成プログラム			
2015	平成27年度				佛大の学部資格開始 グローバル人材プログラム	
2016	平成28年度	補助金終了 / 5年間		佛大の大学院資格開始 地域公共政策士 実践力養成プログラム		
2017	平成29年度					
2018	平成30年度					
2019	平成31年度 / 令和元年					
2020	令和2年		プログラムの認証終了 →学部資格をGPMに一本化			
2021	令和3年				プログラムの認証終了 →継続(?)	
2022	令和4年			プログラムの認証終了 →継続検討中		再認証(予定) →7年継続

●資格は専門機関に審査され
認証される必要がある
●認証は3年

内部
予算
が
急務
の

2014年に
美山インターン
開始

資格取得者は
5年で約45名

2018年に
美山インターン
終了

②本学の「初級地域公共政策士プログラム」の目的

- ・本学では、「中山間地域の活性化」をテーマとした講義やPBLを展開し、それを通じて学生の問題解決力を養成することを目的としている。
- ・今日、中山間地域は、過疎・高齢化・グローバル化などの社会変化に晒され、地域の疲弊が顕著になりつつある。
- ・こうした中山間地域の現状と課題について多角的な検討を行い、地域の問題解決に向けた提言や実践に取り組むことは、学生にとって問題解決能力を涵養するまたとない機会となる。
- ・また、こうした取り組みの中で、中山間地域と都市とを繋ぐコーディネーターが養成され、コーディネート事業が開発されれば、地域社会に対して一定の貢献を果たすことにもなる。

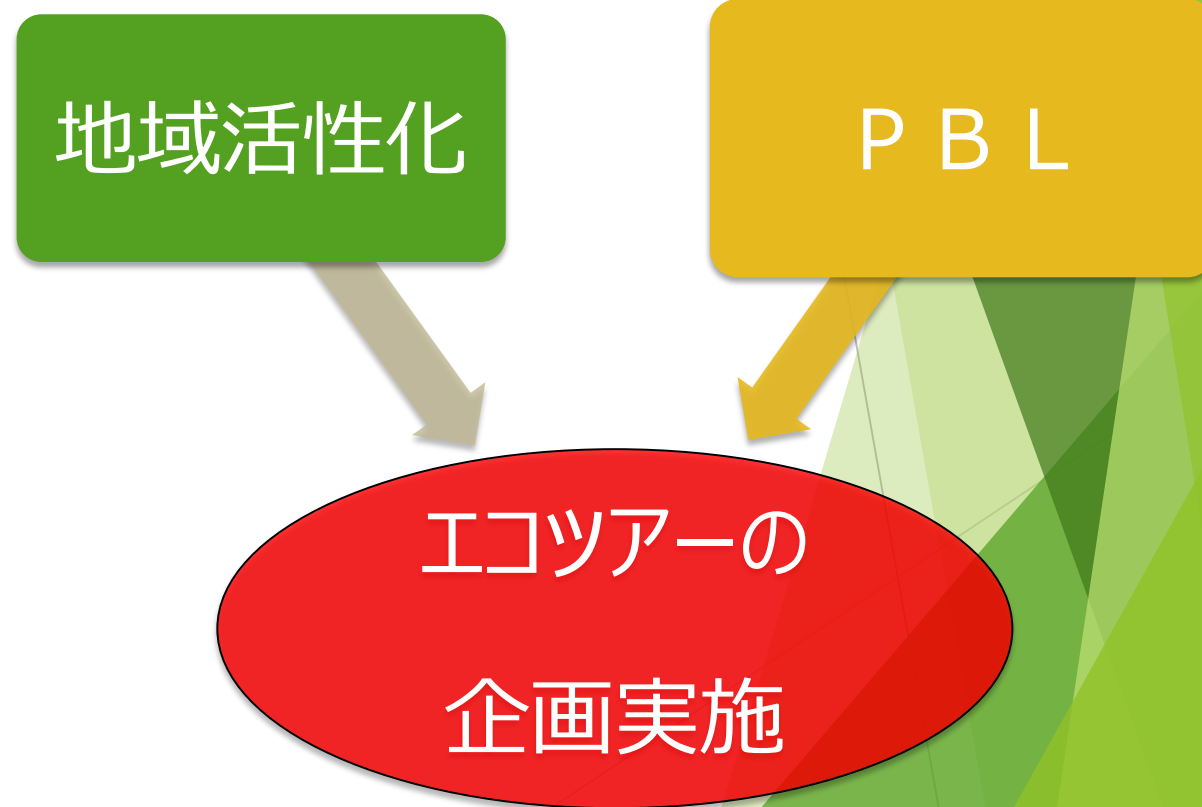
③本学「初級プログラム」のカリキュラム

表1 地域公共政策士初級プログラムのカリキュラム

授業科目	単位	必修	開始	最低取得 単位	備考
		選択	semester		
公共政策学1	2	必	3	2	
地方自治法	2	必	3	2	
公共政策学フィールドワーク入門	2	必	3	2	
環境政策論	2	選	3	4	2科目4単位を選択
地域政策論	2	選	3		
都市計画論	2	選	3		
社会的企業論	2	選	3		
インターンシップ2	2	選	5	2	・1科目2単位を選択
インターンシップ3	2	選	7		・PBLであるため、履修には、 フィールドワーク入門の修得が必要

④ 本学のPBL型地域インターンシップの概要

- ▶ 本学が、PBL型インターンシップを実施するのは、京都府南丹市美山町である。
- ▶ 本学のPBL型インターンシップでは、美山町におけるエコツーリズム事業の推進を目標に、学生がエコツアーの企画と実施に取り組む。
- ▶ これにより、地域に対しては地域資源の発掘や、地域活性化に繋がる事業を提示しつつ、学生に対しては、課題解決型学習の展開が可能となる。



⑤ 本学と美山地区との関係

- ▶ 本学では、平成16年に、美山町と地域包括連携協定を締結し、町内をキャンパスと見立て、コミュニティキャンパスと称し、佛教大学美山荘を設置した。
- ▶ これは、一方で「地域」を学生の「学びの場」として、もう一方で「教育研究活動」を地域活性化の「起爆剤」として活用することを目的としていた。
- ▶ その後、毎年50名を超える学生が、正課として美山町でのフィールドワークやインターンシップに参加してきた。また、モデルフォレストや毎年開催される美山フォーラムなど地域の取組にも大学として積極的に関わってきた。
- ▶ 本プロジェクトでは、こうした美山と本学の関係を、美山サイドから支えて下さっていた財団法人「美山町自然文化村」と業務委託契約を結ぶことで、P B Lを展開する上で必要となる現地での調整役・連絡役等を確保している。

注) 「美山町自然文化村」は、2014年に「美山ふるさと株式会社」に統合されている

⑥ P B L 型インターンシップ参加者の決定方法

● P B L 型インターンシップの参加者

- ・例年 P B L に参加している学生は10名程度（男性がやや多いイメージ）
／公共政策学科自体の男女比が男性が多い

● 参加者の決定プロセス

- ・インターン開始年度の前秋から、初級地域公共政策士プログラムと美山町での PBL 型インターンシップに関する説明を開始
→一定の負担を覚悟して貰う旨を通知、また定員も10名程度と明示
- ・前年度12月に参加希望者を募る（希望者は多い年で定員の2倍程度）
- ・前年度1月に、P B L の担当教員による志望書確認と面談→参加者の決定

⑦ P B L型インターンシップの予定表

2016地域公共政策士養成インターンシップスケジュール

		A班(3名)	B班(4名)	C班(3名)
		行政・公共施設	住民組織	観光事業者
		国定公園(府) 森の京都構想(府) インバウンド受入	どんな地域にどんな 資源があるのか 地域の思いは？	観光の現状と可能性 課題発見
8月29日	月	第1回ツアー造成会議(エコツアーとは) オリエンテーション&生活準備		
8月30日	火	第2回ツアー造成会議(コンセプト・ターゲット・観光資源・フィールド・効果等)		
		9:00 南丹市美山支所	9:00 美山町自然文化村(大野課長)	9:00 (有)かやぶきの里(勝山社長)
8月31日	水	9:00 地域おこし協力隊(美山担当)	13:00 鶴ヶ岡振興会(下田会長)	13:00 美山町観光協会(神田会長)
9月1日	木	9:00 集落支援委員(日吉支所)	9:00 北村かやぶき保存会(中野会長)	9:30 田歌舎(藤原代表)
9月2日	金	10:00(一社)南丹市美山観光まちづくり協会	9:00 知井振興会(高野会長)	9:00 ニシオサプライズ
9月3日	土	休み		
9月4日	日	休み		
9月5日	月	9:00 里の公共員(古北委員)	9:00 平屋振興会(外田会長)	9:30 道の駅連絡協議会(小島駅長)
		第3回ツアー造成会議(テーマ・目的・効果)		
9月6日	火	企画会議	企画会議	企画会議
9月7日	木	ツアー造成のための下見		
9月8日	木	第4回ツアー造成会議(ツアーの具体化) 第1回ツアー企画プレゼン会議準備		
9月9日	金	10:00~12:00 第1回ツアー企画プレゼン会議(美山町観光協会・エコツアー協議会・道の駅長・専門家)		
到達点		観光でまちづくりの論拠の整理		

⑧事前学習と事後学習について

- 本学のPBL型インターンシップでは、事前学習および事後学習を行っている。
- 事前学習では、美山町での情報収集のため、座学や合宿、あるいは美山町での各種地域イベントに参加して貰う。
- 初級プログラムのPBLは、学生に美山町での一定の経験があることを前提に実行される。
- 事後学習では、PBLで企画されたエコツアーをブラッシュアップしつつ、このツアーを実施できるよう、美山町観光協会や南丹市美山エコツーリズム推進協議会などへ提案していくことになる

事前学習（情報収集）

美山の事前学習および合宿

インターンシップ

エコツアーの企画

事後学習（政策実施）

エコツアーの提案&実施

⑨「エコツアー」の外部評価

- 学生のエコツアーは、3つの立場から、外部評価を受けることになる。

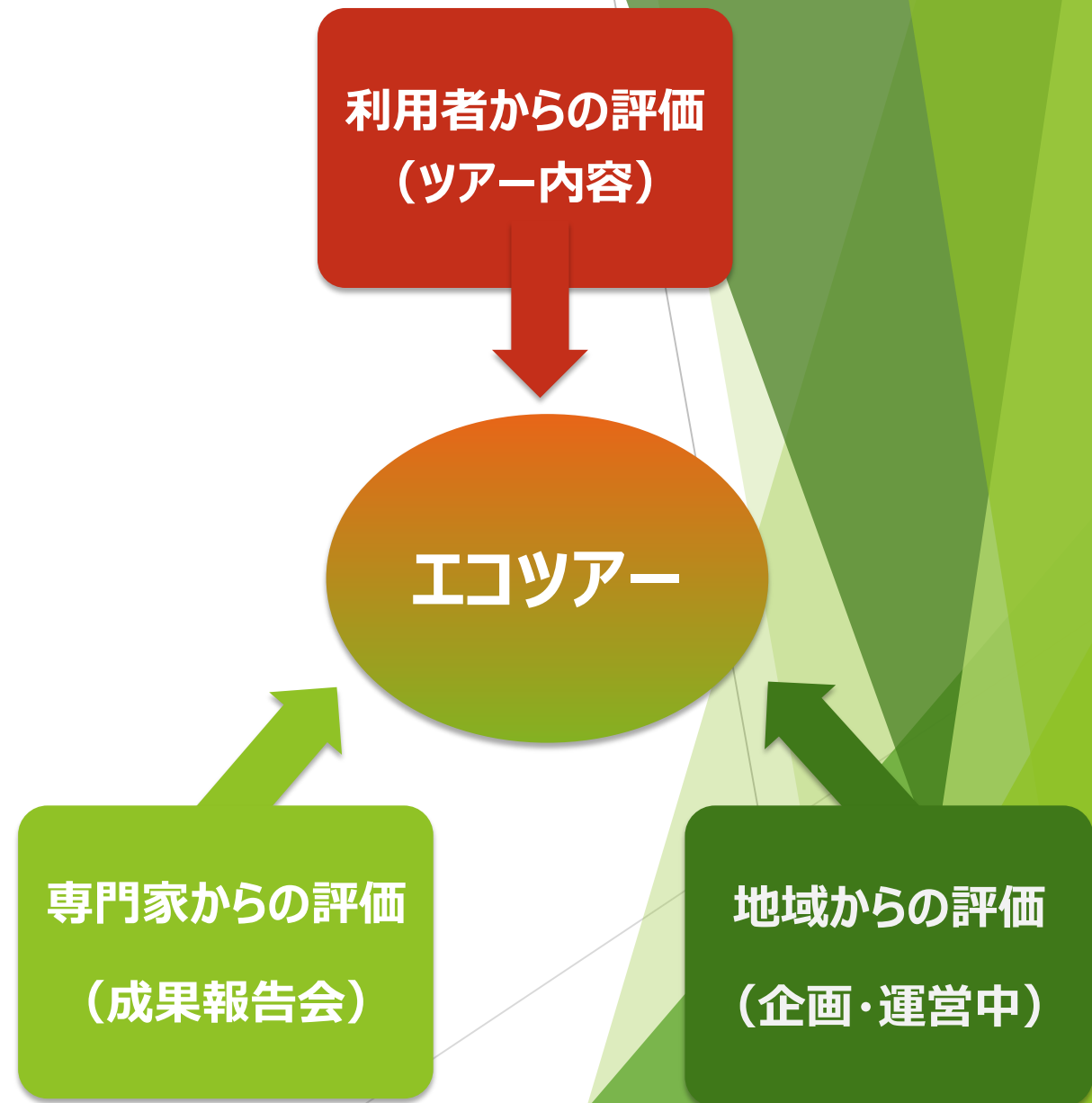
① 外部の専門家の評価

→ 美山町で、年度末に、エコツアーを評価する報告会を開催

② エコツアーに向けて、美山町へ働きかける中で、地域からの評価を受ける。

③ エコツアーの利用者からも評価される

→ 利用者はお金を払っているのでシビア



⑩ インターンシップの成果として期待するもの

A : 主体的学習力

自ら課題を設定し学ぶ力

- 現実社会と触れ合う経験
- 地域の課題を、自分の課題として捉える経験

B : コーディネート力

他者や社会と関わる力

- 「地域の様々な住民」や「異なる価値観の仲間」とのコミュニケーション
- 「地域の様々な住民」や「異なる価値観の仲間」へのプレゼンテーション

C : 政策立案能力

地域の中でプランを実現する力

- 必要な情報を自ら収集し整理する経験
- 整理した情報を論理的分析する経験
- 分析結果に基づいたソリューションを実行する経験

⑪「結論と課題」

<結論>

- ▶ 地域をフィールドとした教育プログラムとしては先進的であり学生の人間的な成長には一役買った
- ▶ 本当に地域に就職する人材を輩出した／2名

<課題>

- ▶ 地域振興能力とは何だったのか？それをどのように計測するのか？本当にそれは身についたのか？
- ▶ 学内・学外向けにもっと広報・PRすべき
→ 予算や人員獲得の意味でも

問題解決力
の養成

専門的な
知識教育

PBL型
インターンシップ